

進め！物流部パート1

公平部長の奮闘記

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その1）

2007年1月 3年の大阪単身赴任を終えた、公平 進は 新橋の本社前に立っていた
思えば 大阪での購買部の仕事を終え、2006年12月下旬 配属先不明で突然帰京命令
が下り、ミナミのお姉さん達に 別れの挨拶をする時間も無く
ハトのマークの単身バックでのあわてての帰京となった。

イケイケ株式会社は創業40年の建築資材卸商社 世間からは中堅企業と見られていた。

その日

早速6階の社長室へ挨拶に伺い

「まいど～ ただいま戻りました 公平 進です」

と 関西帰京らしい出だしで 挨拶した所

浮かぬ顔をした 不断社長が 「ああ お おはよう ま まいどだね」

と 着席を進め

雑談の後

「実は 今度 君には物流部に行ってもらいたい」と申し訳なさそうに切り出した

「すいません それは どんな部で 私は何をするのでしょうか？」

「そ それは 君なら出来るよ」と 答えに成らない得意の 不断節のセリフで終わり

それが

3年ぶりに戻った 2007年1月 本社での ステキな生活が幕を開けた瞬間であった。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その2）

イケイケ株式会社の物流部は、関東に5ヶ所 関西に2ヶ所の物流センターを構え
当日配送が売りの 社員70名 協力業者ドライバー80名 都合150名の男達の軍団
でなり罵声が飛び交う とってもステキな職場だと 社内の先輩より聞き
はたして 本場 大阪で鍛えた ギャグが通用するのか とにかくマザーセンターの
新木場にある東京物流センターへ挨拶に行こう と決めたのは 1月の初旬でした。

「ごめんください」のギャグは封印し

駅から徒歩20分の現地に着いたのは 1便の出発が終わり ひと戦が終わった

11時前

「どうも～こんにちは～ 公平です」

と 扉を開けたところ 数名がこちらを見ただけで 返事が無く

あれ 会社間違えたかなと 看板を再度確認 イケイケ東京物流センターの文字を
再確認

皆 恥ずかしがり屋さんなのかなと思っていた その時

「ピーピーピー あ 危ない～ こら そこ邪魔 邪魔～あるよ～」

とフォークリフトが近づいて来ました。

「す すいません あの～物流部の 公平です～」

「はあ～」

「今度 物流部に配属になった公平です」と大声で叫び

「ああ あっち あっち」と 奥に指をさされ

「あそこに所長がいるから あそこ行って」と あごで指示されました
それが そのあと 本当にステキになる 男達との最初の出会いでした。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その3）

奥の倉庫裏に 所長を探しに行ったところ

芝生の上の犬のフンを処理している 岩塚所長を発見

「所長初めまして 物流部の公平です」

一心不乱に フンの処理

「物流部の公平です」と再度挨拶

「フーン 公平さんね」と一瞥

「い いったい何をしていますか 所長一つ」

「こ これは 大事な仕事なんだよ」と一途な瞳

「公平さん ぶ・物流は 初めて？」

「はい 人生で初めてです」と返事

「だ・大事な事を言うよ ぶ・物流とは・・・ 物流とは・・ 物流とは・ 人とモノ
の カス いうなれば クソが溜まる所なんだよ～」

俺達は クソ なんだよ～ クッソー クッソー と言いながら
犬のフンを何かに取りつかれたように処理する姿

や 病んでいるのか？

それとも 掃除好きなのか

きっと掃除が大好きなんだろうとその時は解釈し そのセンターを見学
心地よい よそ者を見る視線と 重い空気 ここは二酸化炭素が多いのでは
1時間かけて詳細に寒い現場の見学を終えたころは 体が芯から冷え
何故だか 先々が思いやられ、疲れが残る 初回訪問でした。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その4）

とにかく 全センターを回って 70名の名前と顔を覚える事が先決と決意し
各センターを回って3回目。

東京物流センターにおいて 行ってはいけない2階の部屋がある事を知り
興味深く聞く所によると、商品は バッカーといい 細かい作業なので 集中力が必要
で集中する為に あまり覗いてはいけない そこには妖怪が住んでいると・・・

そこで 皆の制止を振り切り 開かずの扉をひらき

一歩足を踏み入れると そこは 整理された棚に ポリエチレンの匂い

しっかり袋つめされた商品が 棚の上部までびっしり

「フン フン」と見学していた所

「あ・あんた～何やってんの～よ～」の地の底から聞こえるような かすれた低音
振り返ると そこには 大きなマスクに長い髪を無造作に束ねた 60才台のベラに
似た 女性 大川さんの姿が・・・

「ひえ～っ ごめんなさ～い 今度新しく赴任した 公平です 宜しくお願いします」
一騎に挨拶し 深呼吸 ゆっくり部屋を見渡し

「すごく 整理された素晴らしい現場を学びたくて伺いました」と

大阪で鍛えた よいしょを発射！

マスクで見えないが 確実に ニイっと口元をゆがませた大川さんが

「あんた なかなかわかってんじゃないのお～」

と 怖い笑顔

そこからは30分程の大川さんの講義が

「大変なのよ～ この仕事～ 細かいし 数は合わないし ニイ ここ夏暑いし
冬寒いし 皆バカだし 私もバカだし オ ホッ ホッ ホッ～」

「いいこれ見て こういうふうに物を置くと 取りにくいでしょ でもこうすると
サイズも分かって取り易いでしょ 間違わないようにワザとに形の違うサイズを真ん
中に入れるの そうしたらバカの私でも間違わないでしょ オ ホッ ホッ～」

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その5）

公平は 心底関心した なるほど 良く考えてるな一と。

こんなある面 地味な仕事でも 現場は現場で 本当に考えてハサミの配置一つ意味のある所に置いてあるんだと 知らない事を知る喜びで 30分の講義後も 様々な疑問点等を話し すっかり妖怪人間ベラと恐れられた大川さんとの会談が終了し 下の事務所に戻った時には 3時間が過ぎていた。

いっぽう下の事務所では 公平が遭難しているのではないかと 救助隊を出そうと算段している所へ 公平が 「いや～勉強になりましたー」と無事生還

一同から 歓喜の拍手が

「いや～ 皆さん 物流現場の知恵はスゴイですよ 驚きだ 皆さんが当たり前になっている事が スゴイ事ですよ 私には出来ない」

公平は本当に こんな地味で誰も知らない目立たない けど頑張っている現場の一人一人にスポットを当てたいと思った 知らない社内・外の皆に知らせたいと思った大川さんは26年間も ひとりぼっちの環境で闘っていた。

お子さんの話をした時の 嬉しそうな顔が 闘いの支えだったんじゃないかと確信した。

この 公平の想いが のちに物流部の「明日の風」という物流のニュースレターとして創刊される原点となった。

そしてその後「明日の風」がセンター現場と 社内 仕入先 お客様との距離感を縮め 物流改善に大きく前進するツールのひとつとなっていくた。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その6）

物流は1970年台 暗黒大陸とも言われ 実態のわからない業種だった。

日本では1970年台に物流倉庫という名ができ 営業倉庫の倉庫管理に定年者が配置されるという位置付けだった。

イケイケ株式会社も創業40年といっても 物流部がどういうものかわかっている人は少なかった。

どうしても会社の人材の受け皿としての機能がある事は否めなかった

その為 現場の士気が低下する事も過去には度々あった。

公平は3ヶ月で70名の顔と名前を覚えたとき 物流とは本当の労務管理だと確信した そして孤独感を感じた。

人と歴史を知らないと 運営が難しいと思った。

公平は何か困った事があると 社長の運転手をしている鬼平さん(67才)に相談した

鬼平さんは 赤帽さんからスタートし草創の物流所長まで経験した人で

歴史を知っている今の物流の古い社員にも一目置かれる存在だった

その 鬼平さんに、公平は様々な悩み事を相談しアドバイスを受けた。

ある時 鬼平さんが

「公平君 男ってもんは 男ってもんはな 仕事を一生懸命すればするほど 半分は味方で 半分は敵なんだよ 全員から好かれようと思うな いいかそんな奴は仕事なんかしていない奴だ」

と 叩き上げの 本物の言葉を頂いた。

演歌の花道のように その背中には 桜吹雪が確かに見えた

公平は言った

「鬼平さん 半分敵はキイツ過ぎます 私は味方を60%以上作りたい」と

お互い ニツと笑い

みちのく一人旅を口ずさんだ。

ああ だんだん俺も 物流色に染まってきていると思い始めた。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その7）

その日 公平の眠りは浅かった。今日は10時から幹部会、先日の物流のクレームが議題に上がるのは見えていた。物流はクレームの宝庫だった ISOの取得に伴いクレーム処理票を上げる事が社内規定となり 毎月 数枚の処理票が上がってきた。

クレームの内容は大きく3つあり 1番多いのは 誤出荷で 違う商品を届ける事 結果 コストが3倍 手間10倍 信用は無限大の損失となる 2番目が 交通事故 3番目がそれ以外 今回はそれ以外で 納品後 ドライバーが小便を我慢できず 納品先の近くの茂みで立小便をし 近隣住民から納品先にクレームが上がり問題となった。そのドライバーは18年目のベテランの通称：山さん（62才）でパンチパーマ気味の髪の毛に太い眉とひげ 見た目は怖いが 笑い皺がステキなドライバーさん 伺うと でかい体を小さくしてしょんぼり申し訳ありませんと直立不動での謝罪 娘さんの病気の関係であと2年は働いて治療費を稼がないといけない経済状況 現場からも功労者で、この人がいたから今があると慕われるドライバーだった。幹部会当日やはりこの話題となり ISOも取得し世間からも中堅企業と見られているのに物流の最後でこんな失態をするドライバーをどうにかしろ との意見が飛びかった 公平は笑顔皺の山さんの顔 娘さんの事他のドライバーが慕っている事が目に浮かび どうにかしろの声に しばらく答える事が出来なかった。

物流部を預かる者としてどうするんですかの最後の質問に対し

ついに 公平は 大きな声で言った。

「俺は・・・俺は・・・小学生のころ うんこ 漏らしたことがあります〜っ」

ドッカーン！どうだー コノヤロー の顔で叫んだ。

その瞬間会議室に空白の時間が流れた 全盛期のミルコクロコップの左ハイキックのよいうな大技だった 前日より寝ずに考えた公平の答えだった。

幹部達の頭が 軽い脳震盪を起こした 何が起きたのかわからない人もいた そして 不問で会議は散会した。

後日 不断社長より 3万円のクレームセミナーの参加受講票が送られてきた。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その8）

その後もクレーム処理票は、数多く届いた。

ある時 他部の人間と話していると

「でも なんだかんだ言っても 物流センターはやっぱ使えない奴が行く所だろ～」
と 現場をバカにした話があった 確かに受け皿機能として物流業務など経験したことも無い縮小した部の人間が配属になったり なにか問題があり本社にいられず物流現場に送られた例は過去に有った。

昔からいる現場所員も歯が抜けて薄汚れた作業服でこの商品しか管理できません 電話対応は出来ませんなど チョット～頼むよ～もう少し頑張ろうよ～ の連中もいます。でも 本当に真面目で コツコツ 体を酷使して作業に臨む人間が多い集団です。

ただ 公平は その時 瞬間に

「ふざけるな 真面目で素晴らしい人間が勤める職場だ！」

と 瞬時に反論できず

自分も 現場の人を 心の中では バカにしているのではと 自己嫌悪に陥った。

そして絶対に

「使えない奴が行くと言われた物流部」から「物流部で働きたいんです」

と物流部を希望する社員が、今後出るように 物流ブランドを立ち上げようと決意した。

それは あの妖怪人間ベラと言われた大川さんが 息子の為 懸命に働く姿が 小学生のころ自宅内で内職をしていた公平のお袋とかぶっていたからかもしれません 母の誇りを守る為

公平はお袋には弱いのです。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その9）

ある時 鬼平さんが

「公平君 クソ漏らしたんだって」

ニヤッと笑いました

そして 「よく漏らして ドライバー守った いいクソだ」

と 褒めてくれた。

そして鬼平さんは 各センターの長老のネットワークを使い

今後 二度と公平に クソを漏らさすな と厳命してくれました。

この 現役時 鬼軍曹と呼ばれていた鬼平さんの力は強く

全センターのドライバーさんが 公平さんがうんこ漏らすような事は今後しませんので、安心してトイレ行ってくださいと真剣に言ってくれました。

公平も 調子に乗り

「今度は 中学生で漏らしたとは 告白できませんので 皆さん宜しくお願いします」と頭を下げました。

その ドライバー達の熱い心に 本当に お腹がゆるくなって漏れる思いがした。

くしゃくしゃの顔をした、ドライバーの山さんと目が合ったとき 山さんの目から大粒の漏れがありました。

山さ～ん 漏らすなよ と思いながら

公平も 少し 漏らしてしまいました

告白して 良かったと・・・

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その10）

公平が 物流部を担当して全国物流をみる事となった。当時 関西の大阪・神戸物流は 関東より後に出来 交流も少なく お互い顔さえ全員一致しない状況だった。

ある時 神戸の春川所長の奥さんのご両親が相次いでお亡くなりになった

春川所長も 九州まで葬儀に出た。

当時 イケイケ株式会社はコストの見直しがテーマで

様々な経費見直しを行いましょうとの機運が高まっていた

物流部より 急ぎ 弔電を打つ事にした。

さて 物流部 1本の弔電でいいのかなと考えていたところ

「あんまり神戸とは付き合いがないし代表で 1本でいいんじゃないですか もったいないですよ」と言う 元所長の意見があった。

その時 長老の 昔、鬼平さんと仕事をしていた 山藤さんが

「全センターから打ってあげようよ」と静かな 重みのある声で話した

「本人も奥さんの里にはそんなに帰ってないと思うし 相手の親戚が多く集まる所で大変だと思うし ご両親の供養にもなる。多く弔電が届けば ああ旦那さんの会社は旦那さんの事を大切に思い 又旦那さんもそんな立場の人なんだな 奥さんもいい人と結婚出来て良かったねと周りの人も思ってくれば 春川所長も今後やりやすいでしょ」とのお言葉があり、長老の気配り知恵に脱帽し至急 全センターより弔電を打ちました。その後 落ち着いた神戸を訪れ 春川所長と面談

山藤さんの話を伝えた所。

急に 100キロの大きな体が波うち 肩を震わせ

「ありがとうございます ありがとうございます」と大粒の涙。

本当に 山藤さんの言った通り 都合 10 通の弔電が届いた後 九州で初めてあう親戚の方からも打ち解けられ 少し苦手だった奥さんの里とも距離が縮まりました。本当にありがとうございますと 言葉にならない鼻水言葉を発しました。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その11）

春川所長が まさか泣くななんて想定外の為

公平も当初 戸惑っていたが 狭い空間で連鎖するのか

公平も なぜか鼻水が出てきて

「こ・この せ・先輩が あ・汗水流して 苦勞して作っていった物流部を この 思
いを う・受け継ぎ も・もっといいセンターを い 一緒に つ・作ろうよ」
と お互い潤んだ目で 手を握ったその時、

バタンと女子社員の 芝河さんが戻ってきました。

瞬間 芝河さんが

「ひえ」

っと 声にならない声 見てはいけないオトコの秘密を見てしまった顔で

「し 失礼しました〜」

との返事

公平は 涙声で叫んだ

「ま・待て〜 俺は 俺は ノーマルなんだあ〜 待ってくれ〜 」

公平の脳裏には 「うんこたれ+モーホー=さみしい人生」の

方程式が浮かび 何としても 何としても 誤解を説かなければいけないと

違う 涙があふれて来たのであった。

そして このモーホー疑惑のあとから まさに関東と関西が仲良く 全国物流が 団
結して前進の合言葉をもとに 強固な全国物流ネットワークの構築を開始し始めたの
であった。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その12）

「実は 私勤めて12年他のセンターへ行ったことが無いんですよ」

と聞いたのは 全員と声を交わす事が出てきた多くの所員のセリフだった。

「それなら違うセンターへ行き全員研修しましょう」

と言って 始まったのが 現場所員のクロス研修
他センターの良い所をマネて自センターへ持ち帰る

必ず 研修先センターのレポートを書き 所長会議で開示し

お互いが 良い面を競い合いました。

2ヶ月後 全所員が1ラウンド回ると 現場所員レベルでの電話でのコミュニケーションが密になってきました ああ これが「見える化」なのかなと公平は感じた。

今度は関東のセンター長が言った

「公平部長 大阪物流ってどんな感じですか？」

「大きさは千葉物流ぐらいかな」

「食べ物おいしいですか？」

「新世界の串カツは最高よ」

「た 食べたいですよね・・・」

「食べたいな・・・」

「飲み屋はやっぱいいですか」

「そりゃ〜ハウティンだよ」

「・・・」「・・・い 行こうか」

と いう事で 関西にて下心あり全国所長会議：関西サミットが企画開催された
所長・長老を含む10名での関西サミット

百聞は一見にしかず の言葉通り 行かなきゃわからない現場の様子 所員の生の声
お好み焼きを口にした長老からは 公平さ〜ん いい思い出ができました〜
と感謝の声

珍道中でしたが 確実に全国物流が一つになった出来事でした。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その13）

関西サミットの効果はすぐに表れ 関東のセンター長が

「まいど 元気」「ごめんくさい」

と 大阪の北所長 神戸の春川所長とギャグを飛ばし始めた。

サミット前 神戸物流は1日の伝票枚数が一番少なく 春川所長も全国物流と歩調を合わせるためにも何か神戸物流として結果を残したいと考えていた

そこで 神戸が独自に始めたのが プチ棚卸という作業だった。

それは配送後 担当者が受け持ちの棚を毎日棚卸するという

気の遠くなる 地味な作業

そして その 作業の結果、物流部歴史初の棚卸差異0件を達成しました。

物流は 当たり前に注文を頂いた商品を、当たり前にお届けするのが仕事で
当然の事を当たり前にする単純な事の難しさを誰よりも知っている所です
100点か0点しかない世界で 常に100点を求められます。

関東においてのクレームも80%近くが誤出荷

この誤出荷を食い止める為に

ロケーション管理の強化 二次検品の強化 商品名称の工夫 伝票文字を半角から
全角への工夫 など 誤出荷のクレーム票が改善の宝と捉え 全センターで知恵を出し
改善に取り組みました。

大切な事は 今まで100回に1回間違えていた数字を 500回に1回 1000回に1回
へと改善し数値を上げていくこと 差異数を減らす事

そして その最終の決め手の作業が プチ棚卸かもしれないと

関東の所長達も感じ初めていました。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その14）

その後 物流部は

「誤出荷はコスト3倍 手間10倍 信用は無限大の損失」の標語を

目立つ所へ貼り紙し 誤出荷防止に全センター全力で取り組み始めた。

差異数の減少よりも 正しく届ける正出荷率100%を目指す指標に逆転の発想で切替

その一つの指標として 棚卸結果を成果の発表会と位置付けた

神戸のプチ棚卸を早速取り入れたのは

千葉物流の森所長と多摩物流の川島所長だった

タイガースに出来て ジャイアンツに出来ない訳は無いと 密かに闘志を燃やし

迎えた棚卸 この関東の両センターが 昨対比70%減の差異数を叩き出し

関東物流で正出荷率99.950%台を初めて出した。

この両センターの改善の波動は全国を駆け巡り 全所員が 正出荷率100%に向けて

夢と思われた100%へ向けて 真剣に挑戦を開始した。

公平は思った 関東で100%はありえない

神戸物流の100%は 伝票枚数が少ないから可能性があり

また 反対に100%はとってはいけないと思っていた。

2年後 2010年6月20日実施の棚卸において

多摩物流が関東で初の差異0件 正出荷率100%を達成した。

【データー】

2月～6月期間伝票行数 47,493行

推定ピッキング数（5倍換算とした場合）237,465回

この金字塔は1日に2,200回ピッキングを5名で行い 5ヶ月間ミス無しという数字

その後 関東物流では100%は無く 千葉物流の差異2件99.995%が最高値となっている。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その15）

その日 公平はトヨタ L&F カスタマーズセンターで4Sセミナーを受講していた。

フォークリフトのトヨタ L&F が物流改善の為に、仮想の物流センター 最新の物流機器等の展示を設け 毎月多彩なセミナーを開催するセンターである

その中で 基本の4S（整理・整頓・清掃・清潔）に関して

物流の基本を学ぶに持ってこいの研修センターだった。

そして何より素晴らしいのは

館内見学ツアーを案内するカスタマーズセンターの美人女性スタッフの対応だった

公平はこのスタッフを気に入っていた。

公平は 全所員4Sセミナーの受講を企画推進した

それは 教育に力を入れるしか物流改善は無いと思った（下心）からである。

関西まで含め 8班に分け 1年かけて所員全員がセミナーを受講し研修報告書を書いた そしてもちろん、すべてのセミナーに 公平も参加した。

参加したある所員が言った

「公平さん 本当は女性スタッフに会いたいんじゃないですか？」

彼は とっても優秀だった。

「どうして スタッフと写真撮ってるんですか？」

彼は 少し気配りに問題があった。

「どうしていつも同じ彼女を指名しているんですか？」

彼は もう少し大人になってほしかった。

「4SのSって ストーカーのSですか」

彼は 所長候補になった。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その16）

岩塚所長からバトンを受けて 東京物流の所長になったのは
武士所長だった 若いころは柔道 相撲でならし 人の道の上において 公に出来ないことも多々ある 器のでかい人だった。

4月のある日

その 器のでかい所長が 泣き崩れる出来事があった。

その日の朝 元気に出勤した ドライバーの通称:元ちゃんが 配達途中で急性の心臓発作をおこし 帰らぬ人となった

昼に 連絡をもらい 武士所長が病院へ駆けつけた時は手遅れだった
何が起きたのか理解できなかった。

元ちゃんは頑張った

迷惑が、かからないように 路肩に車を寄せていた きつと苦しかったけど最後までドライバーとして安全を優先した 運転席から外へ崩れ落ちた そこに縁石があり額には大きな傷あとがあった。

全員が抜け殻になった

3日たっても信じられなかった。

公平と武士所長で話合い 元ちゃんがいつも使っていた 15 番の駐車場の後ろの桜を
元ちゃん桜と命名 札を立て

その日を 物流部安全確認の日とした。

毎年 春 満開の桜の中 全センターが朝礼と黙祷を捧げ
安全を確認する大切な日となった

また その春がやってくる

元ちゃんが皆の安全を見守ってくれている。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その17）

2008年4月 公平は「明日の風」という物流部初のニュースレターを創刊した。

A4版1枚表と裏の簡単なレターだった

当初在庫をしている仕入先80社に郵送 社内は回覧した

創刊号 A面には 全国センター長の紹介

B面は あのバッカーの母 大川さんの現場の工夫をレポートした。

創刊後 大川さんに会った

「いやだあ～ 恥ずかしいじゃないの～ 何すんのよ～もう」

と 腰をくねらせて近づいてくれた時が 今までで一番怖かった。

良いも悪いもレターのネタは尽きなかった

それほど日々現場では様々な事が起きていた。

各センターにデジカメが1台あり 日々こんな改善を考えましたと映像を送ってくれるようになった。

全国物流に特派員が誕生した。

ストーカーはいなかった。

物流関係の各マスコミがニュースレター面白いと言って5回程記事になった。

そこに出た 所員が奥さんに俺の事出てるんだと記事を見せ 仕事を頑張るようになった

地味で目立たない作業に 誇りが 芽生え始めた。

仕入先とセンター現場のコミュニケーションが良くなった。

デリバリー担当者とのコミュニケーションが良くなった。

会ってないのに 昔から知っているような感覚が広まった。

公平は ぼんやりと「共感・共生・絆」とはこんな感じなのかなと感じた。

就任当初回っていたセンターの空気がレター創刊後 明らかに軽く明るくなった。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その18）

その日 公平は作業服で物流現場にいた。

これで8回目のドライバー同乗配達そう 公平は全センターでドライバー同乗し共に配達業務を行った 当初、緊張していたドライバーも

「ホントは漏らしてないからね」の一言で打ち解け

車中で配達の苦労話をはじめた

公平はこの苦労話を聞くのが好きだった。

今回同乗する 勉ちゃんと呼ばれるドライバーは 他のドライバーが出発してもなかなか出発の気配がなく じっと伝票を眺め手を動かしていた そして車に行き 荷物の位置と伝票を確認していた

全員が出払って 30分後「行きます 公平さん」

と 呼ばれ やっとスタート 伝票枚数は他のドライバーよりも少し多い午前便都心のエリアを担当 遅配しないのか少し心配していたが 勉ちゃんは涼しい顔

今迄の経験で公平が同乗すると気合を入れ飛ばすドライバーが多いのに妙に安全運転

「勉ちゃん もう少し早く行ってもいいよ」と 声を掛けると

「いま この道は45キロがベストです あの角をまがる信号が青になります そこから55キロだと目的地まで一切信号にかかりません」

との返事で 実際にその言葉通りに物件に到着

「この物件の商品は荷台の左下です 右側は交通量が多いので危ないです」

と 頭の中に 車の停止場所 ネット場 一番取りやすく安全を考慮した商品の配列をスタート前に完璧に仕上げていた。

その後 とんとんと配達のリズム正しく終了し 一番遅くスタートし一番早く戻って来た

そして 午後便を詰め込み また 伝票をじっと眺める目

それは棋士が難解な詰将棋を解くような空気があり

公平は また 現場のすごい人を発見した喜びを感じた。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その19）

「バカヤローこれぐらい運べるだろー」

「お前 うそつくな 無理だ伝票減らせー」

朝の東京物流の配車はまさに鉄火場の様相 その中で ピカリーの配車をする近藤さん。

近藤さんは元ドライバーで 27年無事故・無違反の伝説のドライバー
体調を壊し 配車担当となって1年で 全エリアを完璧に回す。

朝 全ドライバーの 顔 声 車を見て ドライバーのコンディションを計り
同じドライバーに 昨日は25枚の伝票を渡し 今日20枚
どうして 減らすんですかと聞くと

「あのドライバー 疲れが溜まっていて昨夜必ず深酒している、絶対今日が一番ヤバイ
今日は喝を入れるより 優しい配車をする」

「助手席にコーラーの殻ビン2本あったら いつもコンビニで捨ててくるのに あいつ
今日はあわててる だから今 一息いれさせる」

など 1日1日 全神経を研ぎ澄まし 小さな変化に敏感に対応 ドライバーの力量
体調 荷物量 天気 曜日 道路状況を総合判断し配車。

一度 どうしたら27年も無事故・無違反できるんですか？と聞くと
たった一言 「想像力」との返事。

一言の返答の その 思考の深さに脱帽。

世の中 絶対に 何か長い事継続している事には その深い訳が必ず有る。

公平は またまた現場のすごい人を発見し うちの物流の人達はホント日本一だと心
の中で叫んだ。

進め！物流部

公平部長の奮闘記（その20）

ある時 上司より相談があり 営業部の人間で 物流部に入りたいという
若手がいるけれど 受けてくれないかと・・・

公平は聞いた

「ほ・本人が自分の意思で 物流部を希望しているんですか？」

「そうなの なんか たまにセンターに荷物取りに行ったりして なんとなくセンタ
ー現場で働いている人を見て 俺も一緒に働きたいと言ってるの」

「物流部で働きたい」

と 本人が言っているんですね。

公平は嬉しかった その若手と会っていないが大歓迎だった。

その若手の 斉間君が東京物流に配属されて3ヶ月後

朝 公平は現場に向かった。

武士所長からは

「やる気があり、すぐに皆と打ち解けドライバーからも可愛がられてます」と

日に焼けた 斉間君の笑顔は 見ているこちらも嬉しくなる笑顔

「公平さん 今 毎日が楽しくて仕方ありません ありがとうございます」と
太くなった二の腕に商品を抱え積込む

旭日を浴びた その背中が とても逞しく思え

「漏らすなよ」

と 一言 つぶやき 朝のセンターの活気を全身に吸収し

「よし 今日も頑張るぞ！」と

トイレに駆け込む 公平だった。 (完)

公平 進の現場改善心得 10ヶ条

(こーへいすすむ)

1. 等しく全員の名前を覚え、全員の意見を一対一で聴く。
2. 明確な未来のあるべき姿 夢のある姿をイメージする。
3. 年長者の意見を尊重し大切にす。
4. やると決めたらブレない 時間がかかってもやる 継続は力と信じる。
5. 良い情報は共有する。
6. ファン作りの思考を持つ。
7. 最前線のドライバーに優しいまなざしで接する。
8. 答えは現場にある 現場への想像力を忘れない。
9. 反応感度とスピード感を重視する。
10. すべての出来事は自分自身の心の分身と捉える
すなわち 自己成長する以外に前進なしと心得る。

最後に

「明日に向かって走れ」4周年記念

小冊子 「進め！ 物流部」を御読み頂きありがとうございます。

笑いました 公平頑張れと思いながら
一騎に書き上げました。

物語はフィクションです

ただ リアルな出来事を経験しないと書けない事も事実です

ドライバーを含め 130名の人間と素敵な経験・体験をする事が出来感謝します。

この小冊子は 物流部の仲間と そして本社物流部の 長廣貞彦・高橋康子氏 両名がいなければ出来ませんでした ありがとうございます。

広告界の巨人 ホアキン・ロレンテは言った

「未来とは まだやっていないことを するための時間だ」と

まだまだ やりたい やります やりましょう
やってないことを。

今後共 ご支援 ご協力の程
宜しくお願い致します。

2012年3月吉日

化研マテリアル株式会社

東京都港区西新橋 2-35-6

物流部 部長

坂本 尚也

sakamoto@kaken-material.co.jp